

新しい日本と新しいカナダ

及び

日加関係の今後の展望

駐日カナダ大使

ジョゼフ・キャロン

於：石川カナダ協会

2006年5月31日

初めに、本日このような機会を与えてくださいました石川カナダ協会の皆様に感謝の言葉を申し上げます。昨年日本に着任して以来、金沢を訪れるのは初めてですが、10年前に、石川カナダ協会が設立された際に、記念行事に参加する機会に恵まれました。もう一度、10周年という節目の年に、金沢に戻ってくる事が出来まして、とても嬉しく思っております。この場をお借りしまして、10周年のお祝いの言葉を申し上げますとともに、皆様の一層のご活躍をお祈りいたします。

本題に入ります前に、自己紹介をさせていただきたいと思います。私は1972年にカナダ外務省に入省いたしまして、嬉しいことに今回で日本駐在は4回目になります。昨年夏に日本に戻るまで、中国大使を務め北朝鮮とモンゴルの大使も兼任しました。北京駐在中は日本の大切な仲間との友好関係を保つために年に一度は仕事やプライベートで来日する努力をしました。

家内のクムルも私も、個人的に日本に愛着を感じております。私の家内は合計すると日本滞在が19年間に及びますし、子供達は全員日本生まれです。

そして私の重要なライフワークの一つが日本酒の世界を極めることです。日々の研究を通じて日本酒技術の向上に貢献できればと思っております。(ポーズ)

本日は、日本とカナダで起こっている変化について、またそうした変化が日加関係に与えている影響について、私なりの視点から意見を述

べたいと思います。また、カナダと日本、特に北陸地方において今後期待される機会についてご紹介したいと思います。

『新しい日本』

どんな国も時間とともに変化するものですが、現在の日本は、政治的にも経済的にも、1998年8月に私が日本を離れた時とは非常に異なる状況にあります。

日本経済は過去5年間、注目すべき変化を遂げました。一部の地域や業界に課題が残されてはいますが、経済界に再び楽観主義が戻っています。私が特に感心したのは、日本が中国の発展から利益を得ることに大いに成功している点です。日本は対中国貿易黒字を達成し、日本から中国への投資が中国の発展の主要な駆動力となっています。日本が繁栄を続けるにはさらに改革を推進する必要がありますが、日本経済は踊り場を脱却し、明るい未来が見えてきたと私は感じております。

同じ時期に、日本の政局にも大きな変化がありました。それは日本の外交政策に大きな影響を及ぼし、日本は地球温暖化やテロといったグローバルな問題に直接関与するようになりました。

カナダは、日本が国際開発、グローバル外交、平和、安全保障の分野でますます大きな貢献をしていることを認識しております。

『新しいカナダ』

変化を経験しているのは日本だけではありません。我が国も同じです。カナダは8年連続で連邦予算の黒字を達成するなど、今以上に明るい未来を築くために努力してきました。1990年代初期にさまざまな経済問題に直面した後、カナダは経済改革に取り組み、国家財政の建て直しを実現し、今ではOECD諸国の中で最も活気のある経済の一つとなっています。このまま行きますと、今後10年以内に国家債務のGDPに占める割合を25%に削減することができる見込みです。

賢明な財政政策により、新たな優先事項に目を向ける余裕が生まれましたが、こうした取り組みは的を絞ったものであり、国家予算の枠内

で遂行されています。新しい連邦政府のアジェンダでは、政府内での責任の所在を一層明確にするためのメカニズムの構築、就業世帯への支援提供、就業者の税負担の軽減、医療サービスの改善に重点が置かれています。

強いカナダは、国境や港など、輸送網が収束し商業の中心地を結び付ける役割を果たすゲートウェイを通じて国際取引が円滑に流れることを前提としています。カナダの「太平洋ゲートウェイ戦略」と新しく設立された「高速道路と国境のインフラ基金」はこれに基づいており、カナダが国際的競争力を維持・向上し、日本と北米とを結ぶ架け橋としての存在を強化する上で不可欠な政策です。製造分野での日本からカナダへの投資の増加は、効率の良い港湾、鉄道、陸路、そして米国との「スマート・ボーダー」に対する信頼の高まりを裏付けています。

2006年5月に提出された連邦新予算は、カナダ政府によるインフラ支出の大幅拡大を確証するものであり、今後5年間に「高速道路と国境のインフラ基金」に対して合計24億カナダドルが約束されています。また、「太平洋ゲートウェイ戦略」に対しては今後8年間に**5億9100万カナダドル**の投資が予定されています。

日加経済関係における新たな活力

両国におけるこうした明るい進展のおかげで、日加間の経済関係にも新たな活力が生まれています。2005年1月、両国首相は新しい二国間経済枠組みの策定を開始しました。この枠組みにおいて、日加協力に関する15の優先分野が特定されるとともに、通商及び投資における両国の関係をさらに強化するための共同研究の実施が約束されました。この共同研究は、2005年11月の「日加経済枠組み」の調印と同時に正式に開始され、今年中に終了する予定となっています。共同研究の重要な活動の1つに、両国の関係者との協議があります。私自身、カナダ企業や大学、各州政府に積極的に働きかけ、共同研究への参加を推進してきました。これは共同研究を効果的なものとするために不可欠なプロセスです。同時にこの機会を通じて、カナダ経済の真の姿、すなわち、天然資源や高品質の食品の主要供給国としてのカナダ、活気に満ちた知識経済を基盤とするハイテク国家としてのカナダを紹介できるものと期待しております。

この経済枠組みがこれから新たな成果をもたらすことはもちろんですが、私たちは既にいくつかの早い収穫を刈り取っています。2005年両

国政府は、「税関協力取り決め」、「独占禁止協力協定」、「投資促進に関する覚書」に調印しました。また今年の2月には、私自身が麻生外務大臣とともに、長い間懸案となっていた「日加社会保障協定」に調印するという光栄に浴することができました。両国の経済界で優先項目となっていたこの協定は、日本とカナダの国民の年金に対する権利を保護するとともに、企業のコストを低減し、投資環境の改善につながるものと期待されます。この協定は今年夏に批准され、2007年後半に発効する予定です。

日本はカナダの第二の輸出市場であり、昨年の物品とサービスの売上げは100億カナダドルを超えました。物品の輸出額は昨年再び上向きに転じ、6パーセント上昇しました。サービスの輸出額は30パーセント以上増加しています。ソフトウェアなどのカナダのハイテクベンチャーを初め、両国間の投資も拡大しています。

木材はカナダから日本への最大の輸出品です。金沢にあります加賀木材株式会社は、木材の貿易や木材を使った建設を手がけております

が、神社やお寺などの建設用木材として、ブリティッシュ・コロンビア州からアラスカヒノキを輸入していただいております。金沢にもございますセルコホームは、日本におけるカナダ木造住宅の主要輸入業者です。10年以上にわたって、トロント近郊を本拠とし、ブリティッシュ・コロンビア州にも拠点を持つViceroy Homesの日本での独占販売元となっています。セルコホームは日本全国に販売店を持ち、デザイン性に非常に優れた幅広い種類のカナダ輸入住宅を提供しています。そのおかげで、カナダは日本における木造住宅の主要供給国となっています。

カナダは環境技術産業の分野において、先進的な製品が数多くございますが、金沢にある株式会社興和(きょうわ)ゼックスが、カナダで開発された水苔や藻から作った天然の油吸収・吸着材「スファグ・ソープ」(Sphag Sorb)の販売契約をこの5月に結んだということです。このような事例が今後も益々増加することを望んでおります。

平和と安全保障に関する協力

国際平和と安全保障の問題についても少しお話しさせていただきます。

今日我々が対面している脅威はこれまでとは異なります。それはテロリストなどの国家以外の組織であったり、新種の感染症であったりします。こうした脅威は一国の政府や個々の組織ではますます対応不可能なものとなっています。

私自身、平和と安全保障の問題を長年見守ってきました。その多くは日本との直接的な協力に関係しています。1990年代の半ばに日本に駐在しておりました時、私は「平和及び安全保障に関する協力のための日加対話」を立ち上げました。このイニシアチブの初期の成果の一つに、中東ゴラン高原におけるカナダ軍と日本の自衛隊との協力があります。

このように、平和と安全保障の分野で日本とカナダは国際的に大きな貢献を果たしており、外交政策において多くの共通の目標を掲げています。昨年には両国首脳が「平和及び安全保障に関する協力のための日加行動計画」の元でこれまで行ってきた協力に引き続きコミットすることを再確認しました。

このような協力の具体的な例として、カナダ大使館はこの3月東京で、平和構築活動への文民警察官の派遣に関するシンポジウムを開催しました。このセミナーにおいて、日本の警察庁が平和支援活動への新しいアプローチを初めて発表しました。

このように、日本は国際開発、平和、安全保障の分野で一層重要な役割を果たすようになっており、ビジネス面だけでなく、外交や平和構築においてもカナダにとって重要なパートナーなのです。

人々のつながりと北陸地方

二国間関係の進展にとって、政府同士の外交や貿易が重要なことは言うまでもありませんが、より深い、意味のある関係を築くには、人と人との活発なつながりが欠かせません。北陸地方にはカナダの友好都市が2つあります。加賀市とハミルトンと志賀（しか）町とコルウッドです。これらの友好都市では、大変活発な青少年交流が行われており、今年の7月には、志賀町の小学生と中学生によるコルウッドのベ

ルモント高校との教育交流とホームステイが予定されているそうです。また、この地方にはカナダ出身のJET参加者が22名派遣されており、石川県だけでも11名を数えます。さらに、2004年から、山中塗りを国際ブランドに育てようと山中町の職人さんとソルト・スプリング島のアーティストによる交流も始まっています。

本日の午前中、私は金沢21世紀美術館を訪問し、館長の蓑豊さんに大変ご丁寧な案内をしていただきました。蓑さんは実は、トロントの王立オンタリオ博物館で、キャリアをお初めになられました。その後、ハーバード大学で修士号を取得なさった後、モントリオール美術館で東洋部長をお勤めになられました。金沢には、このようにカナダの芸術に関する知識が豊富な館長さんもおられることですし、私は、今後、カナダと金沢の芸術・文化面での交流がますます盛んになることを期待しております。

まとめ

これまでお話してきましたように、日本とカナダにおける最近の進展と相互に対する一層の関心によって、日加関係に新たな活気が生まれています。カナダは日本を国際社会における重要なパートナーと見なしており、一層安全で豊かな世界を築くために協力を続けていくことをお約束します。

北陸地方は、「国際ビジネス推進」のアジェンダにおいて重要な地域の一つです。本日ご臨席の皆様は、カナダが皆様の組織に提供できることに関心を示してくださっている方々であり、カナダに関する認識を高め、北陸地方との関係を一層強化する上で中核的な役割を果たしていただけると確信しております。カナダ大使館は皆様のご活動をあらゆる面からご支援させていただきます。

最後に、皆様のご活躍をお祈りして講演を終了させていただきます。

ご静聴ありがとうございました。